発行所
三池炭鉱労仂組合
大牟田市不知火町2
電話 ③3033番 ③3034番
編集兼発行人　山下　開
半年間600円　送料共

炭労期末闘争へ

要求は15万円、実力で取る

炭労三池の期末手当闘争はこれからであるが、しかし全国的にもこの大牟田でも、すでに闘争を妥結、早やはやと期末手当の支給を受けた組合さえある。

八日発行の〝労働ニュース〟(総評発行)により、全国的に夏季闘争の状況を見れば、出版労協の平凡社など五十四万一千五百八十四円という高額回答をもって妥結しているなど、高額妥結が大きな特徴となっている。

同ニュースは、述べている——「夏季一時金闘争は、各単産とも基準内賃金や新賃金の三カ月以上を要求して六月上旬段階から、ストライキを含む強力なたたかいで回答をひき出し、上積みをはかってきた。」

依然低い〝地場〟回答

打破すべき三井の低賃金政策

炭労は〝四十七年上期期末手当〟十五万円要求の方針をきめ、再度闘うことになった。

妥結したところでおもなところをひろって見ると、平凡社のほかに次のような回答が見られる。

出版労協＝岩波書店四二〇、九〇〇円、講談社四五〇、七八五円、小学館四三七、九三七円、集英社四一〇、九〇三円、ほか略。

民放労連＝毎日放送四三五、〇〇〇円、朝日放送四二九、五〇八円、朝日放送四二九、五〇八円NET三八二、九八二円、読売テレビ三七二、〇八二円……など。

合化労連＝日本ルセル二九〇、九七五円、科研薬化工三〇三、〇九五円、山之内製薬二六九、〇〇〇円、田辺製薬二五四、〇〇〇円、藤沢薬品二七〇、九四二円……など。

全国金属＝横川電機三一九、五一八円、日本機械二四一、三五六円、精工舎二〇八、一七六円……など。

全造船＝三菱三七五、〇〇円、石川島三七五、〇〇〇円(以上平均)……など。

これに対し大牟田の場合を見ると——

三井東圧化学一五〇、〇〇〇円 市職組一六〇、〇〇〇円、国鉄・全逓・全電逓・専売一一〇、〇〇〇円～一四〇、〇〇〇円、西鉄約一〇〇、〇〇〇円、三煉一三〇、〇〇〇円、大協バルブ一〇〇、〇〇〇円などよい方。明らかに三井支配下の地場賃金の低さをここにも見る。

カンパ協力に感謝

今、各守る会や各個人の人びとが三池労組の要請にこたえ、困難ななかに、全国でカンパ活動をすすめてくれています。三池労組として、組合員として心から感謝しようではありませんか。

のりミス製造作業などの復帰訓練中の、19人のCO患者。(万田回復訓練所で)

三池労組の組合員だけで、CO患者の命がすでに十人も消えた。新労組員の患者でも相当数の死者が出ていることは確実で、それを加えるとなればおびただしい死者を数えることだろう。

それにつけても、かねて四人の遺族が、あくまで「主人たちの死はCO中毒によるものだ」として、福岡労働災害補償保険審査会(小野守一・審査官)に対し〝遺族補償年金不支給決定取消審査請求〟を提出していたところ、今年の五月二十二日に至りむげにも棄却されてきた。

四山鉱で重大災害発生

堀内さん瀕死の重傷

原因は保安軽視に　組合、会社に厳重抗議

すでにビラで伝えたように、去る六日、四山鉱(鉱長＝前村正一)で発生した災害のために重傷。天領町の三井病院本院につきこまれ、加療中の堀内一美さん(三十九才で新労組員の払採炭工。四山社宅八十棟に居住)のその後の状態は、依然として一進一退を続けているとのことで、つきつきの肉親の方々を心配させている。心から、堀内さんが元通りの体に回復することを祈らずにはいられない。

同鉱で災害が発生した時刻はその日の午後一時十五分。場所は、同鉱の坑口から七千九十メートルはいったところで、四百六十メートル坑道につらなり開削されている上層三十五尺、西三片の自走枠払いだった。

払採炭工だった堀内さんは、そのとき枠移動作業に当たっていたが、カッターがとまる位置に〝まつ岩〟が出ていたので、これを落すために使うストーバーを取りにいったところで、被災したものだった。

ちょうどその刻、ほかの人が坑木の枠足の回収作業を続けていたが、回収しようとする枠足にエヤーブロックのチエーンをまきつけ五枠ほど手前にあった、カッペチエーンにそのブロックをかけ、その枠をひき抜いた。

ところがそのひょうしに、チエーンがはずれ、そのフックがパンツアーコンベヤーのバーにひっかかってしまった。

そこで、その人はとっさに、パンツアーコンベヤーの停止を求めるベルを押したはよいが、かんじんの同コンベヤーを停めるために押すボタンのある付近に、だれもいず、従ってパンツアーコンベヤーは遂にとまらなかった。

自然カッペがはずれたため、そのうえに乗っていたハリがはずれ頭上から、ボタが堀内さんに落下その体をなぎ倒したのだった。場所からいって、即死でなかったのが不思議なくらいだという。

三池労組は、ただちに会社側に強く抗議したが、こんどの災害の原因について、会社がたとえ何といおうと、組合としてはほぼ次のように分析している。

第一に、少数精鋭主義を強行するかたわら、最大限の出炭を実現しようとのあやまったやり方が、原因の根本だ。切羽面に、作業員がたった八人。任務以外の作業で走り回ることさえ めずらしくない。

第二に、従って一人ひとりが仕事に追いまくられているばかりでたとえどんなに危い仕事をやるにも、はたから注意深く見守っていてくれる者はだれ一人いない。

要するに、依然として改めようとしない、三井鉱山の保安無視、人命軽視、生産第一主義がひき起した災害であることは明らかだ。会社は、当然責任を追及されなければならない。

4遺族、再審へ請求へ

不支給は認められぬ

真の死因はCO中毒だ

この棄却は、絶対に認められることではない。従ってこれらの四人の遺族たち——故松本常男さんの妻フミヨさん(緑ケ丘社宅桂町九二棟)、故江崎豊さんの妻ヤエ子さん(大牟田市宇田隈四九)、故片山福太郎さんの妻トシエさん(荒尾市永野一四一九)、故西本正人さんの妻美子さん(大牟田市駛馬町一四二)らは、三池労組の援助のもとに、近く〝労災保険中央審査会〟(亀谷隆委員ら八人)に対し、〝労働災害保険再審査請求〟を提出、あくまで主張をつらぬくことにした。

再審査請求の要旨は——「直接死因と一酸化炭素中毒症との因果関係は認められないので、業務外の死亡として不支給する、ことに対する再審査請求」

ちなみに、故人たちの死亡について一見すると——

松本　常男さん
四一年一二月七日死。肺ガン

江崎　豊さん
四三年五月一四日死。肝臓ガン

片山福太郎さん
四三年三月六日死。肺ガン

西本　正人さん
四四年七月一二日死。脳背髄炎

三池労組側の医療団としていずれも、直接の死因が何にせよ一酸化炭素中毒に起因するものと判断それにもとずいての前回の審査請求だった。

故西本さんに見る具体例

右のうち、西本正人さんの場合を例にとると、昭和三十八年十一月九日、三川鉱炭じん大爆発により被災、一酸化炭素中毒患者となり、大地評曙病院入院——大牟田労災療養所——と加療続行。四十一年十月三十一日治癒認定・労災補償打切りとなり、四十三年一月二十二日より職場復帰。

中毒症増悪のため、その後やむなく私傷取扱いにより、再度曙病院入院、治療中のところ四十四年七月十二日〝脳背髄炎〟で死亡。

これに対して、福岡労災審査官からつきつけられた〝不支給通知状〟は述べている。

「一酸化炭素中毒症が直接死因となった脳背髄炎の発症、及び致死的因子の荷重因子となる可能性は十分考えられるが、確実な根拠とするには尚不十分であると考えられる」(九大医学部志田医師の総合意見)

さらに「文献的にも薄弱であるので、一酸化炭素中毒との間の因果関係を認めることは困難で、脳背髄炎によるものであると解される」、と述べている。

明らかに、CO中毒患者のまっ殺の一つの意図から出ていることは明らかだ。

従って、ついにこんどの再審査請求となったのである。

死亡した、ほかのCO患者

CO患者の、ほかの死亡者は次の通り。(敬称略)

松永　義登　四二年二月　二日
水谷　種重　四二年一〇月三日
大坪　一郎　四三年一一月九日
下河　竹次　四四年四月二一日
高尾　国治　四六年一一月一五日
福田末雄　四七年五月九日

右のうち、高尾さんと福田さんに関しては、今福岡労災保険審査会に審査請求中。結果が、注目されている。

なお、以上は三池労組関係だけ

日本の加担も追求

ニクソンの戦争犯罪告発する東京集会

【連合】「インドシナにおけるニクソンの戦争犯罪、日本政府・財界の共犯を告発する東京集会」が七月八、九日の二日間東京・一ツ橋の学士会館で開かれた。この集会は、アメリカのベトナム戦争の新たな拡大のなか、森川金寿、福島要一、平野義太郎など三十六人のよびかけで緊急に開かれたもので、三百人が参加、みな殺し戦争に対して「ニクソンを糾弾する世界の良心への緊急アピール」と米と日本政府・財界の「告発文」を採択した。

集会では、ニクソンの残虐な戦争犯罪と日本の協力・加担を暴くため、自然科学者、社会科学者、弁護士など各分野から追及報告が行なわれた。弁護士の斉藤一好氏は、国際法の立場からニクソンの戦争犯罪を「平和に対する罪」に加え、いっそう重大な「民族基本権に対する罪」として断罪、平野義太郎氏は日本の協力・加担を「侵略戦争実行行為の一部を分担しつつある共同正犯にまで進んでいる」と特徴づけ告発した。